

02	一宮	大和中学校	マツダ サチホ	
			名前	松田 幸穂
分科会番号	1	分科会名	国語教育（文学その他）	

研究題目

「主体的・対話的で深い学びを引き出す国語指導」
 一批判的な読みを通して、文章を評価することができる生徒の育成を目指して―

1 研究の概要

(1) 主題設定の理由

本学級の生徒は、これまでの国語の学習を通して、文章の重要なところをまとめて要約したり、理由を挙げて自分の意見を伝えたりする基礎的な力を少しずつ身につけてきた。毎日の授業の中でも、隣の人やグループの仲間と話し合う活動にはとても前向きに取り組むことができ、お互いの考えを聴き合いながら自分の考えを広げようとする雰囲気が育ってきている。

しかし、複数の文章を読み比べて評価するという活動については、経験が少ないこともあって、まだ大きな課題がある。それぞれの文章が何を一番伝えたいのか、話の組み立てにどのような違いがあるのかを正確にとらえることや、自分の知識と照らし合わせて「この文章の言っていることは本当に正しいのか」と一歩引いた視点から内容を見極めることが難しい様子が見られる。

1学期の授業の様子を振り返ると、グループの中では和気あいあいと話し合いが進むものの、どこに注目して読み比べればよいのか迷い、自分の判断に自信をもてない生徒の姿が多く見られた。一方で、机間指導をしたりプリントを提出させたりして生徒の書いたことを確認する中で、発表こそしなかったものの、独自の着眼点で文章の展開の仕方について述べた意見や、柔軟な感性による考察がたくさん書き残されていることに気づかされた。自分の読み方や考え方に不安を感じて自信がもてない生徒がいることも、よい意見がクラス全体に共有されないままになっていることも、何とか改善していきたいと感じた。

生徒たちが自信をもって文章を読んで評価したり、自分の考えを伝えたりすることができない理由を考えると、「自分の意見はみんなと違っているのではないか」という不安

や、どこに注目して文章を比べればよいのかという「見るべきポイント」がはっきりしていないために、自分の読み方に自信がもてないことが原因ではないかと考えられた。今の社会は、環境問題などのように「これだけが正しい」という答えが一つに決まらない問題で溢れている。このような社会を生きていく生徒たちにとって、目にする情報をそのまま信じ込むのではなく、色々な意見を読み比べ、自分なりに納得できるかどうかを判断する力は、将来のためにとても大切な力である。

そこで今回の実践では、タブレット端末のスプレッドシートやドキュメントを活用することで、友達がどんなふうに文章を読んでいるのかを、画面を通してリアルタイムで「チラ見」できるようにした。他の人の考えをいつでも参考にできるという安心感を作ることで、生徒一人一人が自信を持って文章を読み込み、自分の立場をはっきりとさせていく力を育てたいと考え、この研究主題を設定した。

(2) 目指す生徒像

示されたいくつかの情報を、自分の持っている知識や今までの経験と比べながら、批判的に読むことができる生徒。また、自分がどうしてそう考えたのかという理由を、文章の中から根拠を見つけて分かりやすく説明し、自分の立場を明らかにして論理的に表現できる生徒。

2 研究の仮説と手立て

【仮説①】

三つの文章を比較するためのポイントを示すことで、文章ごとの違いを客観的に把握し、内容をしっかり見極めながら読むことができるだろう。

〈手立て①〉

教科書にある「学びのカギ」を参考に、「具体的な例が分かりやすいか」「話の筋道に無理がないか」といった評価のポイントを常に意識させる。また、第2時で生徒たちが分担して読み取った内容を教師が一枚のプリントにまとめ直し、本時(第3時)の最初に配ることで、全員が同じ土俵で文章を比べられるように工夫する。

【仮説②】

話し合いの後に自分の考えがどう変わったかを文字の色を変えて記録させることで、自分とは違う視点に気づき、自分の考えをさらに深めることができるだろう。

〈手立て②〉

グループでの話し合いを通して新しく気づいたことは「青色」で書き足させ、自分の考えにますます自信がもてたことは「赤色」に文字の色を変えさせる。これにより、自分の学びがどう進んだかを自分で客観的に捉え、実感できるようにする。

【仮説③】

自分が納得した点や疑問に思った点を根拠として使いながら、自分の意見を文章に書

かせることで、情報を自分なりに整理し直し、自分の立場を筋道立てて伝える力を育てることができるだろう。

〈手立て③〉

Google ドキュメントを使い、「三つの提言から、環境問題の解決に必要なのは～」という共通の書き出しから文章を書き始めるように指定する。三つの意見の中のどこを証拠として選んだのかをはっきりさせながら、300字程度の文章にまとめさせる。

3 研究の実践

(1) 単元名

「複数の意見を読んで、考えよう ―正解が一つに決まらない課題と向き合う」

(2) 単元の目標

- ① 文章を批判的に読み、そこに表れている筆者のものの見方や考え方について深く考えることができる。【思考・判断・表現】
- ② いくつかの文章を比べたり評価したりして、その理由を明らかにしながら、自分の意見を文章にまとめることができる。【思考・判断・表現】

(3) 指導区分（4時間完了 本時3／4）

- ① 「環境問題を解決するために、今、何が必要か。」というテーマを確認し、本文を通読する。また、三人の筆者の提言について、それぞれの要旨をまとめる。
- ② 観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を表にまとめる。
- ③ 提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどを、自分の経験や知識と照合して吟味し、評価する。また、各自が評価したことについて、班で意見交流をする。…本時
- ④ 「環境問題を解決するために必要なこと」というテーマに対する、自分の考えを文章にする。

(4) 本時の目標

三つの提言について観点ごとに評価し、その根拠を明確に表す。【思考・判断・表現】

(5) 指導内容（第3時）

- ① 前時の学習を振り返り、学習の見通しを持つ。
 - ・第2時で生徒たちが分担して読み取ったことを一つにまとめたプリントを配り、読ませることで、前時の内容を確認する。
- ② 評価のポイントを確認する。
 - ・教科書の「学びのカギ」を電子黒板に映し、「筆者の立場」「論理の展開」「情報の信頼

性」などの具体的な基準を確かめる。

- ③ スプレッドシートを使い、個人で評価をつける。

・各ポイントについて「◎（とても納得）」「○（まあ納得）」「△（疑問がある）」の3段階で、今の自分の考えを入力する。

- ④ 評価をつけた理由を書く。

・特に「◎」や「△」をつけたところを中心に理由を書く。教科書の「語彙ブック」を活用して、分かりやすい言葉を使うように促す。

- ⑤ グループの中で自分の意見を発表し、聴き合う。

・3～4人のグループになり、自分の評価と理由を伝える。他の生徒の画面を直接見せてもらい、自分とは違う見方に触れる。

- ⑥ 話し合いを通して、自分の考えの変化を記録する。

・他の生徒の意見を聞いて新しく気づいたことは「青色」で書き足させ、自分の考えに自信を深めたところは「赤色」に文字の色を変えさせる。

- ⑦ 全体で面白い視点を共有し、本時を振り返る。

・グループ活動の中で独自の視点を持っている生徒を紹介する。本時でできるようになったことを記入して、学習を締めくくる。

複数の意見を読んで、考えよう③ めあて：3つの提言について観点ごとに評価し、その根拠を明確に表そう。

名前	観点	真鍋さん	伊勢さん	堅達さん
		①友の評価をつけた理由 ②友の評価をつけた理由	①友の評価をつけた理由 ②友の評価をつけた理由	①友の評価をつけた理由 ②友の評価をつけた理由
観点1	提言の要旨 (主張の中心・主張の目的・主張の手段)	◎ まずはお客の立場を同じにするのは大切だと思う	○ 個人だと何を伝えたいかわからないから、社会全体で解決するのはいいと思う	△ 肉店〜一人だけ物を売すには、商品があるし、面白いことだと思う
観点2	取り上げている事例	△ 事例はごく当たり前の事例で問題を同じにするのは難しい	◎ 自分たちに関わることでわかりやすい、自分に関係することだと理解しやすい	◎ ちょっとしたことだし生活の中でできることだから行動をしやすくいいと思う
観点3	論理の展開	○ 論理の展開がわかりやすい	◎ 論理の展開がわかりやすい	△ 論理の展開がわかりやすい
観点4	表現の仕方	○ 表現の仕方がわかりやすい	◎ 表現の仕方がわかりやすい	◎ 表現の仕方がわかりやすい

4 成果と課題

(1) 成果

- ① タブレット端末を活用したことで、文章をじっくり見極める力が深まったこと

今回の実践では、スプレッドシートを使って「◎○△」という記号と、その理由をセットで書かせるようにした。これにより、生徒たちは「なんとなく」ではなく、はっきりとした理由をもって文章を評価することができた。

また、タブレットを使うことで、文章を書くことへの心理的ハードルが下がったことも大きな収穫であった。普段は手が止まってしまう生徒も、画面上で他の生徒の考えを必要に応じて見ることによってヒントを得て、自力で書き進めることができていた。手が止まっていた生徒も2名いたが、その生徒たちも教師が少し言葉をかけると、その後は他の生徒の意見も参照しながら、自分で書き始めることができた。これは、タブレットを使用することで、生徒が自分の考えを書くことに対して安心感をもてたからだと考えられる。

② 自分の考えの変化に気づける工夫をしたことの良さと生徒の姿

文字の色を青や赤に変えさせるという工夫は、生徒が自分自身の学びの進み具合を実感する上で、とても分かりやすい効果があった。

例えば、書くことが少し苦手な生徒Aは、最初は文章をどう評価すればいいか迷っていた。しかし、スプレッドシートで他の生徒の考えを見ながら自分の言葉で考えを書くことができた。また、グループで意見を交換する中で、自分と同じような意見を述べる生徒がいたことで自信をもつことができたようで、自分の意見を赤色に変えていた。

また、自分で考えたり書いたりすることに自信がある生徒Bは、グループの話し合いの中で自分とは逆の意見をもつ生徒の発表を聞き、自分にはなかった新しい視点を獲得することができた。これを受けて、Bは自分の評価を修正し、文字の色を青に変えた。他の生徒との対話が、ただの発表の場ではなく、自分の考えを新しく作り替える場になったことは、まさに「深い学び」の一場面であったと言える。

複数の意見を読んで、考えよう③ めあて：3つの提言について観点ごとに評価し、その根拠を明確に表そう。

名前	観点	真鍋さん	伊勢さん	堅達さん
ここに名前を打つ		①●○△で評価 ②左の評価をつけた理由	①●○△で評価 ②左の評価をつけた理由	①●○△で評価 ②左の評価をつけた理由
観点1	提言の要旨 (筆者の立場・ものの見方考え方)	大前提の条件として確かに認識がズレている ○	堅達さんとは反対に社会全体で行動しなければ意味がないという点に共感した。伊勢さんの主張は現在の社会に沿ってまさに現実味を帯びていると感じた。 現在の社会の本質についている。 ◎	確かに意識することは大事だが、個人が行動するという提言だが、それが叶っていないから今も改善されていないのではないかと。また、一人一人が行動するという考えはありふれていると思う。なのであまり説得力がないと感じた。 人に任せている感があった。 △

(2) 課題

① タブレットを使うことと、子どもと向き合うことの両立

タブレットを活用してよかった点が多い一方で、タブレットをたくさん使ったからこそ見えてきた課題もある。

一つ目は、時間配分の難しさである。文字の入力や操作に時間がかかってしまい、一番大切にしていた「グループでの話し合い」がたったの6分間で終わってしまった。生徒たちの話し合いがちょうど盛り上がり始めたところで話し合いの時間を終わりにしなければならなかったことは、非常に大きな反省点となった。

二つ目は、教師自身の動き方の課題である。この授業では、生徒たちが今どんなことを書いているかを確かめるために、教師が自分の手元にある端末の画面をじっと見つめてしまう時間が長くなってしまった。その結果、机間指導して生徒を直接見る目が不十分になってしまったことは、今後必ず改善しなければならない点である。

5 本研究を通して

この実践を通して、いくつかの情報を比べながら文章を批判的に読む活動は、生徒たちが自分で考える力を養うためにとても有効であることが分かった。タブレット端末は、単に意見を共有するための道具ではなく、生徒の思考を支え、友達との対話を促すための強力な助けとなった。

しかし、本研究で得た一番の学びは、タブレットという便利な道具が入ってくればくほど、教師が自分の目で「生徒をしっかり見る」ということがますます大切になるということである。画面に表示される文字だけでは分からない生徒の考えや困り感を見逃さないことが、学びを深めるための鍵になるのだと強く感じた。

今後は、まず Google フォームなどを使って、他の生徒の意見を見る前に、自分の力だけでじっくり考える時間を作り、その後にスプレッドシートで交流する時間を十分に確保するなど、時間の使い方をさらに工夫していきたい。これにより、他人に頼りすぎるのではなく、自分の考えをしっかりとった上で、多様な他者と繋がれるようにしたいと考えている。今後も、デジタルとアナログのよいところを上手く組み合わせて、生徒に力がつけられるような授業づくりに励んでいきたい。